

国立大学アドミッションセンター 連絡会議ニュース

ADMISSION

ADMISSION

ADMISSION

ADMISSION

ADMISSION

ADMISSION

ADMISSION

ADMISSION

ADMISSION

ADMISSION

ADMISSION

ADMISSION

ADMISSION

ADMISSION

ADMISSION

ADMISSION

ADMISSION
ADMISSION

ADMISSION

ADMISSION

第4号

2007年1月

国立大学アドミッションセンター連絡会議 第4回総会開催

2006年5月31日10時30分から、静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」において、国立大学アドミッションセンター連絡会議第4回総会が開催されました。今回の総会には、加盟14大学及びオブザーバーの6大学（岩手大学、茨城大学、横浜国立大学、新潟大学、岡山大学、愛媛大学）から66名が出席しました。また、来賓として文部科学省から児島昌樹高等教育局大学振興課大学入試室長補佐をお迎えし、ご挨拶をいただきました。

総会では、役員の交代、新加盟の承認及び事務局からの報告に引き続いて、3大学（鳥取大学、広島大学、愛媛大学）から、各大学のAO選抜の現状等について報告及び質疑応答があり、最後に九州大学武谷教授から共同研究について報告があり、12時45分に閉会しました。

以下は、総会議事要録、総会における会長及び来賓挨拶の要旨です。紙面の都合上、全文掲載できませんことをご了承くださるようお願いいたします。

アドミッションセンター連絡会議 第4回総会議事要録

日 時	平成18年5月31日（水） 10時30分～12時45分
場 所	静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」9階 908会議室
出席者	20大学（14加盟大学及びオブザーバー6大学）から66名
来 賓	文部科学省高等教育局大学振興課大学入試室長補佐

議 事

議事に先立ち、会長及び来賓から挨拶があった。

（1）役員の交代について（柴田会長）

第3回総会において事務局長就任が承認された山根前筑波大学アドミッションセンター長が、任期1年を残し平成18年3月に筑波大学を定年退職されたことに伴い、代わって同センター長に就任された白川筑波大学アドミッションセンター長を事務局長に推薦したい旨の提案があり、承認された。

承認後、白川新事務局長から就任の挨拶があった。

（2）新加盟の承認（柴田会長）

茨城大学入学センター及び愛媛大学学生支援センターからの加盟申請について説明があり、承認された。

（3）事務局からの報告について（白川事務局長）

①運営費の徴収について

第3回総会において、加盟大学の承認を得ることを条件として承認された連絡会議運営のための経費徴収について、加盟全大学の承認が得られたことから、連絡会議運営費規程第2条に基づき各大学に運営費の納付を依頼し、全大学から領収済である旨の報告があった。

②会計報告について

連絡会議運営費規程第4条に基づき会計報告が行われた。

（5）大学からの報告

以下のとおり3大学から報告があった。

①鳥取大学（福島助教授）『鳥取大学アドミッションセンターの目指すもの』

②広島大学（杉原教授）『広島大学AO選抜の現状と課題』

③愛媛大学（井上助教授）『愛媛大学のAO選抜』

（6）共同研究について（九州大学武谷教授）

共同研究実施のため、第3回総会で申請が承認された科学研究費補助金不採択となった旨の報告及び平成19年度以降の実施方針の策定等に協力願いたい旨の要請があった。

挨拶要旨

柴田 洋三郎 国立大学アドミッションセンター連絡会議会長

みなさまおはようございます。

第4回国立大学アドミッションセンター連絡会議にたくさんの方々においでいただきましてありがとうございます。この会も4回を迎えました。この間、国立大学の法人化もあり国立大学のアドミッションセンター、入試の位置づけも変わりつつあるように思います。

現在、国立大学協会の入試委員会（以前の第2常置委員会）で国の機関からはずれた国立大学法人としてどのように協同していかなければならないかを検討しているところであります。今は18年度に制定されましたスキームに従って選抜を行っている所ではありますが、それが全ての国立大学できちっと守られているかという点と不透明な状況でございます。ただ1つだけ言えることは、多様な選抜の一環としてAO入試が認知されまして、おそらく各大学でご検討の上、導入が進んで行くであろうということは、間違いなく言えるのではないかと考えています。

本日、午後から開かれる入研協の性格も変わりつつあります。大学入試センターが独立行政法人化して5年経過し、第2期中期計画を策定する際に、従来は明記されていませんでした入試研究等を積極的に行うということで、もうすでにご案内のとおり、旧国立大学の入試連絡協議会という性格であったものが、国立大学に限らず国公立大学を含めた入学者選抜研究に拡大したわけでありまして、それに対応致しまして、従来国立大学の入学者選抜であったものが、国立大学も one of them という位置づけにせざるを得ないということで、だいぶ性格が変わってきたということです。

今後、国立大学におけるアドミッションセンターの位置づけも全国の大学の中であるひとつの特色を持って進んでいくのであらうと思いますが、何といたっても日本の高等教育における国立大学の役割は明確でありますので、そういう認識の元で我々もお互いに連絡を取りながら連携して進んでいければと思っております。

その中で具体的にひとつ動きがございます。ご承知のように国立大学のAO入試は、推薦入試とは区別されております。文科省のガイドラインにおいても特別の枠、特別の入試ではなく一般入試のひとつとしてAO入試が位置づけられているのですけれども、そのあたりがややそれぞれの理解が違うところがございます。AO入試のためにセンター試験の成績請求をすることが正式にはでき



ない仕掛けになっていまして、皆様方がある基礎学力をチェックするためセンター試験を利用したいという時に大変不便でした。

それにつきまして、国立大学協会の方から大学入試センターに要請を致しまして、かなりの前進がみられているというようにお聞きしております。大学入試センターの方でも改善会議、懇談会等を開いて協議を進めております。成績請求に応じるためには明確なガイドラインを定義していただきたいということで、今はボールが国大協の方に投げ返されております。大学入試センターとしてはそれに応じて、そういう位置づけの入試であるということを理解した上で成績の提供をする、具体的にいうと受験生が明記するような欄を作るという段階になっておりますので、あとは基本的なところは合意に立ったという具合に書かれていますし、文科省の方の有識者会議でもそれはひとつの方向になっていくだろうと、今年度からというわけにはまいりませんが、早い機会に実現することになっているということです。これもひとつのAO入試の認知の一段階であらうと思っております。

この後、研究会でいろいろと御報告があらうかと思えます。従来、日本型AOと呼ばれてアメリカとかイギリスで実施されているものとはだいぶ性格が違うというコメントもいただいており、また本日の午後にあります入研協セミナーでも、各国における選抜制度をご紹介いただけることになっております。それはそれとして、そういうことも合わせて今後の日本におけます多様な選抜の一環として、AO入試への理解が深まればと考えている次第です。

本日は、短い時間ではございますが皆さん方と一緒にいろいろと討議できればと思っております。どうぞ実りある議論ができますようお願い致しまして私の御挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございます。

ご挨拶要旨

来賓 **児島 昌樹** 大学入試室長補佐



先生方には、日頃より入学者選抜の実施及び改善にご尽力いただきまして厚くお礼申し上げます。

この連絡会議が4回目の総会を迎えましたことをお慶び申し上げます。現在14大学が加盟され、今年は愛媛大学が加盟する予定になっていると伺っておりますが、加盟大学数も増え嬉しく思うとともに、更に発展されることを期待しています。私も本日は総会での報告を拝聴し勉強をさせていただきます。

さて、ご承知のように昨年の中央教育審議会答申におきまして平成19年度に大学全入時代を迎えると予測されましたが、まさしく来年度、入試でいえば本年度にあたることになりました。国立大学におかれても平成18年度に7大学で2次募集を実施する結果がみられたところです。

また、大学がそれぞれの教育理念等に基づいてアドミッションポリシーを明確にし、多様化を図るなど選抜方法に個性を発揮していただくことが期待されています。その多様な入試のひとつとして国立大学でもAO入試の導入が進み、17年度では25大学82学部で1467人が入学し、18年度には29大学92学部で実施されており、19年度もさらに増加するという方向にあります。

入学志願者の多様な個性や能力を多面的、総合的に判定するため、各大学ではAO入試はじめ入学者選抜の改善に向けて調査研究に取り組んでおられますが、そのような調査研究はアドミッションセンターのような専門組織によるところが大変大きく、センター等のご尽力とその成果が、AO入試等を通じて大学が望む人材の入学につながっていると思います。

新聞報道でAO入試が昨今の少子化に対応していち早く高校生を囲い込もうという、いわゆる青田買いになっているのではないかという批判がありました。AO入試につきましては、高校関係者、受験生、保護者はじめ多くの方に理解されるということが必要でありますので、引き続き情報発信を行っていただき、国公立大学全体を通じたアドミッション・オフィス入試の適切な実施と定着を望んでいるところです。

また、昨年度はアドミッション・オフィス入試の状況についての委託事業を大変お忙しい中、筑波大学の白川先生にとりまとめをお願いし、各大学にご協力をいただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

連絡会議を通じセンター間の活発な情報交換と交流が図られ、我が国全体の入学者選抜の改善に資することを期待しております。

大学
からの
報告

愛媛大学アドミッション・オフィスとAO入試

発表者：愛媛大学 教育・学生支援機構 井上敏憲 助教授

1. 愛媛大学アドミッション・オフィスの発足

愛媛大学では平成16年12月に、教育・学生支援機構が発足した。アドミッション・オフィス、修学支援オフィス、学生相談オフィスで構成する学生支援センターはこの機構の下にあり、各オフィスにはそれぞれ1名の専任教員が配置されている。アドミッション・オフィスは入学者選抜方法の改善、入試広報、高大連携、AO入試等に関する業務を担当する。また、アドミッション・オフィスとは別に、高大連携委員会と入学者選抜方法の改革に関する専門委員会が設置されている。

2. スーパーサイエンス特別コースにおけるAO入試

愛媛大学のAO入試はスーパーサイエンス特別コースで平成16年秋に実施したのが最初である。この特別コースは世界第一線で活躍できる研究者の養成を目的とするもので、大学院までの一貫的教育課程、大学からの奨学金による海外語学研修、初年次からの少人数のセミナー等に特長がある。入学定員の15名は全員AO入試で選考される。選抜方法は次のとおりである。まず、志望理由書、志願者評価書、調査書によって第1次選抜を実施する。この合格者を対象とする2次選抜には2日間を要し、講義を受けてのレポート、実験、面接を課す。AO入試は入学者確保を狙っているとの批判があるが、本特別コースでは、入学後に必要な受験者の資質を多方面から丁寧に評価・審査している。このため、合格者数は募集定員に満たないことがある。

3. AO入試の拡大

AO入試は複数の学部が導入を検討しており、平成19年度入試からは、次の2学部が新たにAO入試を実施する。法文学部総合政策学科昼間主コースは、地域活動に主体的に参加し、地域におけるリーダーとなる人材を養成する地域コースの設置を予定しており、プレゼンテーションなどによるAO入試で選抜する。また、教育学部芸術文化課程造形芸術コースでは、後期日程及び推薦入試を廃止し、AO入試に移行する。なお、医学部医学科が実施している地域特別枠自己推薦は、推薦入試の一形態であり、AO入試としては扱わない。

4. アドミッション・オフィスの現状と活動予定

本学のアドミッション・オフィスは入試課と連携して、生産性の高い活動を目指しているが、規模が小さいため、今後導入が予定されている全てのAO入試をカバーすることはできない。現状では、AO入試での関与はスーパーサイエンス特別コースが中心である。当オフィスではAO入試以外にも多くの業務を担当している。オープン・キャンパスのリニューアル、県内複数会場での本学説明会などが今年度の重点項目である。

（追記：発表では触れなかったが、平成19年度からは、アドミッション・オフィスは学生支援センターから分離され、アドミッション・センター（仮称）となる予定である。）

大学
からの
報告

鳥取大学アドミッションセンターの目指すもの ～ マーケティング志向のセクションへ ～

発表者：鳥取大学アドミッションセンター 福島 真司 助教授

はじめに

鳥取大学アドミッションセンター(以下、AC)は、平成14年度に設置され、翌年度に専任教員2名を配置した。それ以降、高校訪問、各種相談会、高校内ガイダンスに積極的に参加し、また、入試に関する諸調査の実施や、入学前教育の実施等、受験する側である高等学校等に極力配慮し、マーケティング活動を強く意識したセクション運営を目指している。

1 AO入試募集概況

導入から現在まで、募集人員を増加させ、出願者数についても概ね増加傾向にある。

- ・平成16年度入試

導入初年度。4学部中、医学部を除く3学部・13学科で実施し、募集人員31名に対し、出願者222名、合格者43名。

- ・平成17年度入試

募集人員36名に対し、出願者209名、合格者49名。

- ・平成18年度入試

募集人員54名に対し、出願者249名、合格者62名。

なお、現在実施中の平成19年度入試については、募集人員61名に対し、出願者326名。

2 ACの諸調査活動

ACでは、諸調査を行い、常に学内外のAO入試に対する意識や要望を探りながら、次年度以降の入試実施に反映させている。

- ・志望要因に関するアンケート調査（一般入試合格者対象：平成14年度以降）
- ・AO入試導入前アンケート調査（学内教職員対象：平成15年度のみ）
- ・AO入試実施後アンケート調査（AO入試実施に関与した学内教職員、合格者、受験者の担任教諭及び進路指導主事等対象：平成15年度以降）
- ・高等学校進路担当教諭ヒアリング調査（高校訪問した高等学校進路担当教諭等対象：平成15年度以降）
- ・諸イベント実施後のアンケート調査（入学前教育、入学後フォローアップイベント、オープンキャンパス(以下、OC)等入試広報イベント来場者及びスタッフ対象：平成15年度以降）

3 諸調査結果を踏まえての行動

3-1 AO入試導入前の各学部への依頼

高等学校側の考えるAO入試への問題点を整理し、受験生に過度の負担を避ける、圧迫面接を止める等、時間的・精神的負担を軽減し、仮に不合格になった場合でも、その後の受験勉強への影響を極力軽減するよう努力を促した。また、選抜を通して、受験生を成長させる選抜方法の実現を目指した。

3-2 AO入試改革

第1回目のAO入試実施後調査結果から、出願時期及び募集人員の見直し、第1次選考での面接導入及び地方会場設置、遠隔地からの受験者に配慮した選抜方法や第1次選考合格発表方法の検討等を実施した。その結果、この後の入試実施後調査では、選抜方法への満足度を大きく向上させた。

3-3 説明責任の重視

AO入試実施後に高校訪問を積極的に実施し、特に合格者が出なかった高等学校に対し丁寧な情報開示を心掛けた。別に、毎年度100～200校の高校訪問の実施や、50回以上入試説明会・相談会、高等学校内ガイダンス等に参加。また、今年度より、前大学教育総合センター長をAC長に迎えたことにより、高等学校、県教育委員会等との関係が強化され、本学へのニーズを探る会議についても積極的に実施を始めた。

3-4 AC関連イベントの充実

県内入学者比率の減少を受けて、本学大学説明会を県内3会場にて実施。OCのイベント色を強め、来場者がより楽しめる内容にすると同時に、積極的に広報し、毎年度来場者を10%～20%増加させている。スタッフには200名弱の在学学生を動員し、事前に来場者への接遇に関する説明会を開く等、親しみやすい接客にも心掛けた結果、来場者の満足を高めている。

4 おわりに

今後の国立大学法人には、ユニバーサルアクセス化をにらんだ入学者選抜方法の制度設計が必要となる。すなわち、自大学へのニーズを把握し、自大学のポジショニングを明確にした上での大学教育改革が必要となる。入学者選抜は、教育活動の一環としての再構築されるべきであり、受験生を冷徹にただ選別するだけの入試から脱却し、高大接続を意識した、受験者を成長させる入試へと転換が求められている。そこには、マーケティングの思想が欠かせない。プロダクト・アウトからマーケット・インへの入試制度転換が必要である。そこでのACの役割は、極めて重要である。

また、AC教員を始め入試担当者が、選抜部分にしか興味・関心がないようではいけない。AC教員は、学部教育改革WGへの参加、大学教育の国際化推進プログラム(平成17年度、18年度文部科学省採択)企画・実施、キャリア教育を始めとする授業開講、サークル顧問就任等教育活動にも積極的に関与している。常にAO入学者を始めとする在学学生に接し、彼らの声を吸い上げるよう努力することも、重要なマーケティング活動であると強く認識している。

大学
からの
報告

広島大学AO選抜の現状と課題

発表者：広島大学入学センター 杉原 敏彦 教授

1. 広島大学AO選抜の概要

広島大学では、平成18年度から入学者選抜を一般選抜と広島大学AO選抜（以下「AO選抜」と記す。）の二種類に区分し、実施している。従来のAO入試、推薦入学、特別選抜等、一般選抜以外の選抜形態をAO選抜のもとに統合したわけである。そのねらいは、受験生にとって入学者選抜のしくみをより分かりやすくするとともに、各募集単位でアドミッション・ポリシーに応じて特色ある選抜を可能にするためである。

特色あるAO選抜の一例をあげれば、たとえば総合評価方式Ⅱ型は選抜の一環として最後に大学入試センター試験を課す選抜であるが、受験者を大学入試センター試験の得点順に並べて合否を決めるものではなく、第2次選考合格者のうち、予め募集単位別に公表している大学入試センター試験の基準点以上の得点をあげた者は全員、最終の合格者とするというものである。

2. 実施体制

本学のAO選抜は、入学センターにおいて出願受理業務を行った上で、各学部で選考を実施するという体制で行っている。各学部で実施する選考については、当該学部からの要請に応じて入学センター教員が参加することになっている。参加の態様は、当該学部の事情によって様々であるが、基本的には学部からの要請には丁寧に対応することになっている。

3. コンセプトと広報活動

本学では今春、大学全体のアドミッション・ポリシーを取りまとめたが、その中でも用いている「挑戦する意欲を持ち、行動を起こす人材を育てます。」というフレーズは、AO選抜のコンセプトをよく物語っている。これからの時代に社会が求めるこのような人材を大学が育てるためには、AO選抜によって入学者を選抜し迎え入れることが有効であると考えている。

しかしながら、まだまだ歴史の浅いAO選抜のこと、その意義と内容を受験生に浸透させるのは容易ではない。本学では、ここ数年、3月にいち早く新年度の入学者選抜の説明を高校進路指導担当教員に対して行い、6～7月に西日本の主な都市で受験生・保護者を対象にした全学的な説明会を開催し、8月のオープン・キャンパス(2日間で参加者数約12,000人)において本学の特質を実感してもらうという循環と見通しをもって広報活動を行っているが、AO選抜についてもこのような方策のもとに広報を積み重ねてきた。

4. 成果と課題

本学AO選抜の成果を語るには時期尚早であろう。ただ、幸いなことに、今年度AO選抜を実施した募集単位の受験者数の合計は前年度よりも増加しているし、一般選抜を含めた本学の全受験者数も増加している。このような傾向とAO選抜実施との関係については、引き続き分析を試みたい。

一般にAO入試と言え、選抜の基準や選抜方法が今一つ分かりにくいという評判を耳にする。この点は、ある意味で今後本学AO選抜が一層発展するかどうかの生命線であるとも受け止めているので、AO選抜問題を冊子にして高校教員等に配布したり、各募集単位の「AO選抜のポイント、面接等の出題例」をホームページ上に公開したりして、判定基準等の公開と周知に努めている。

このような地道な取組みが実りつつあると言ってもよからうか、AO選抜の受験生等への浸透について手応えを感じているところである。



広島大学 杉原教授



愛媛大学 井上助教授



会場風景



鳥取大学 福島助教授

国立大学アドミッションセンター連絡会議会則

制定 平成15年 6月 4日

改正 平成18年 5月31日

(名称)

第1条 本会は国立大学アドミッションセンター連絡会議と称する。

(目的)

第2条 本会は、高等学校・大学間の接続関係の改善及び加盟機関における入学者選抜等の業務改善に関する研究協議を行い、あわせて加盟機関相互の交流促進を図ることを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、必要な事業を行う。

(構成員)

第4条 本会は、国立大学のアドミッションセンター、及び国立大学において高等学校・大学間の接続関係の改善に関する研究及び実践に携わる機関によって構成する。

2 本会の加盟機関は、次に掲げる機関とする。

北海道大学高等教育機能開発総合センター

旭川医科大学入学センター

東北大学入試センター

茨城大学入学センター

筑波大学アドミッションセンター

福井大学アドミッションセンター

静岡大学全学入試センター

京都工芸繊維大学アドミッションセンター

鳥取大学アドミッションセンター

広島大学入学センター

山口大学アドミッションセンター

愛媛大学学生支援センター

高知大学アドミッションセンター

九州大学高等教育総合開発研究センター

長崎大学アドミッションセンター

鹿屋体育大学アドミッションセンター

3 新たに入会しようとする国立大学の機関は、総会の承認を得るものとする。

(役員)

第5条 本会に以下の役員を置く。

- 一 会 長 1名
- 二 事務局長 1名
- 三 運営委員 各加盟機関からの代表 1名
- 四 幹 事 運営委員の中から会長の委嘱 4名

2 会長及び事務局長は総会において選出する。任期は2年とし、再選を妨げない。

3 役員は加盟機関の代表をもって、これにあてる。

(役員の職務)

第6条 会長は、総会を招集し、その議長となる。

2 事務局長は、本会の運営に必要な事務全般を行う。

3 運営委員は、本会の運営に携わる。

(事務局)

第7条 本会に、本会の事務を処理するための事務局を置く。

2 事務局は、事務局長の所属する機関に置く。

(雑則)

第8条 この会則に定めるもののほか、事業の実施に関し必要な事項は本会が別に定める。

附 則

この会則は、平成15年6月4日から施行する。

附 則

この会則は、平成18年5月31日から施行する。

国立大学アドミッションセンター連絡会議役員 2006 年度

会 長：柴田洋三郎（九州大学理事・副学長）
事務局長：白川友紀（筑波大学アドミッションセンター長）
運営委員：下表
幹 事：下表の*

国立大学アドミッションセンター連絡会議運営委員

所 属	職 名	氏 名	T E L	メールアドレス
北海道大学	入学者選抜研究部長	加 茂 直 樹 *	011-706-3923	nkamo@pharm.hokudai.ac.jp
旭川医科大学	教 授	坂 本 尚 志	0166-68-2631	sakamoto@asahikawa-med.ac.jp
東北大学	教 授	石 井 光 夫 *	022-217-5408	mitsuo-ishii@mail.tains.tohoku.ac.jp
茨城大学	教 授	浜 松 芳 夫	0294-38-5195	hama@mx.ibaraki.ac.jp
筑波大学	セ ン タ ー 長	白 川 友 紀 *	029-853-7380	flagship@md.tsukuba.ac.jp
福井大学	助 教 授	大 久 保 貢	0776-27-8644	ohkubo@kyomu1.fukui-u.ac.jp
静岡大学	セ ン タ ー 長	寺 下 榮	054-238-2447	terashita@adb.shizuoka.ac.jp
京都工芸繊維大学	助 教 授	内 村 浩	075-724-7092	uchimura@kit.ac.jp
鳥取大学	教 授	中 村 肖 三	0857-31-5840	snakam@zim.tottori-u.ac.jp
広島大学	教 授	杉 原 敏 彦	082-424-5839	tosisugi@hiroshima-u.ac.jp
山口大学	セ ン タ ー 長	富 永 倫 彦	082-933-5045	tom21@yamaguchi-u.ac.jp
愛媛大学	助 教 授	井 上 敏 憲	089-927-8113	tinoue@iec.ehime-u.ac.jp
高知大学	教 授	八 木 文 雄	088-880-2271	yagif@med.kochi-u.ac.jp
九州大学	教 授	武 谷 峻 一 *	092-642-4489	takeya@ac.kyushu-u.ac.jp
長崎大学	教 授	大 作 勝	095-819-2115	ohsaku@net.nagasaki-u.ac.jp
鹿屋体育大学	セ ン タ ー 長	松 下 雅 雄	0994-46-4977	m-matsu@nifs-k.ac.jp

編集後記

- 第4回総会でいただきました柴田会長、児島大学入試室長補佐の挨拶と、愛媛大学の井上先生、鳥取大学の福島先生、広島大学の杉原先生のご発表を掲載させていただきました。
- 会長、来賓の挨拶では、大学入試センター試験の利用への進展など、多様な選抜の一環としてAO入試が認知され導入が進み、AO入試が拡大していくであろうという共通の見方が示されました。今後、多様化、拡大しつつも国立大学としての品格ある入試を協同して行っていくために、本会議への期待が大きいことを感じました。
- 愛媛大学のスーパーサイエンス特別コースは、世界第一線で活躍できる研究者になりたいと考える受験生に、初年次からの少人数のセミナーや大学からの奨学金による海外語学研修を含めた大学院までの一貫教育を行うという、明確なアカウントプログラムを提供しておられます。
- 鳥取大学の福島先生からは、プロダクト・アウトからマーケット・インへの転換という言葉がありました。製造業でも、研究開発部門の技術者は自ら開発した製品が売れて社会の役に立つことを望んでおり、できるだけ社会の要望を取り入れたいと考えています。それを支援するため、営業は製品の宣伝販売担当（セールスパーソン）から、社会からの要望を伝えるアカウントマネジャーとなっています。大学も社会の要請を受けてタイムリーに変わる体制を作ることができるのでしょうか。
- 広島大学は一般選抜以外の従来の選抜形態をすべてAO選抜に統合されました。これによって、多様なアドミッションポリシーが比較しやすい形で示され、受験生や高校教員から非常に分かりやすくなったと思います。
- 総会の際に撮影いたしました写真も掲載させていただきました。
- 今年の冬は例年より暖かく、その点では入試業務も例年より心配事が減るのではないかと期待しております。皆様お忙しいことと存じますが、新年度に向けてご健勝をお祈り致します。

(T.S)

国立大学アドミッションセンター 連絡会議ニュース 第4号

発行：国立大学アドミッションセンター連絡会議
編集：筑波大学アドミッションセンター（連絡会議事務局）
〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1
TEL:029-853-7385・7386 FAX:029-853-7392

